



「マチビト×京まちなかの商い」Café 開催報告

中京マチビトCafeとは？

中京の今後の自主的なまちづくりについて、ワークショップ形式で話し合う交流会です。まちづくりについての情報交換、交流の場として開催しています。

開催日時：平成 26 年 11 月 27 日（木）
午後 7 時～9 時半

場 所：新風館（Re-Cue Hall & Café Salon）
参加者：67 名（運営スタッフ除く）



1 今回の目的

- まちなかの商いについて学ぶ
- マチビトと商い人の交流，まちなかの商い，まちづくりについて意見交換

2 プログラム

1 未来茶室の組立てと茶室での対話体験

オープニングに先立ち、茶論案庵で開発中の、組立て式未来茶室を、ステージに設置。茶室を使った対話を体験しました。



2 オープニング

- ・主催者挨拶
- ・本日のプログラム説明

3 京まちなかの商いの現状

会場を Café Salon に移動。京まちなかの商いの現状について、商業振興課の説明がありました。

4 京まちなかの座標軸の共有

「茶論案庵」西村先生から、意見交換の際に意識してほしい、キーワードの紹介がありました。



5 意見交換のテーマを募集！

意見交換のテーマを会場から募集。会場の皆さんから、13 ものテーマが提案されました。



6 テーマ別意見交換

参加者は、それぞれの関心のあるテーマに分かれ、交流し、意見交換。20 分間×2 セット、熱心な議論が行われました。

3 話し合われたテーマ一覧（詳細裏面）

- 1 京都の情報サイトを充実させたい！
- 2 フードロス为主题にファーマーズマーケット
- 3 喋れたら得するやん！
- 4 学区カルタをつくろう！
- 5 お米と塩から考える食の暮らし
- 6 若者×高齢者のつながりを各地で
- 7 店舗を持たない起業家（作家）をサポートしたい！
- 8 京都のよいイメージの確立の為のハード面について
- 9 京まちなかの横断的なエリアマネージメントをする NPO の設立！
- 10 まちなかの全ての人に情報を浸透させるためには？
- 11 若い世代が学び次世代へつなぐ『京育』講座＆『リトル KYOTO』の開催
- 12 みつばちから商い道は？ブランド化・環境？
- 13 若手のつくり手支援

4 未来茶室が新風館に出現！「茶論案庵」とのコラボ実現！

初の区役所外、新風館で開催された、中京マチビト Café 学びと共鳴編の第 2 弾。今回は、京のまちなかに商業者などの交流の場を創り出すプロジェクト「茶論案庵」との共催です。

ステージの未来茶室での対話体験を経て、舞台は**実際のカフェ**へ。商いの現状，京まちなかの座標軸を学んだ後，**新たなネットワーク、アイデアを求め、約 70 名のマチビトと商い人が交流**。普段と異なる雰囲気での意見交換で皆さん、新たな気づきを得た様子です。閉会間際には門川市長も飛び込み参加！



参加者の声（一部抜粋）

- とても学びになった。もっと地域を知りたくなった。
- 地域づくりに熱心な方と知り合えて良かった。
- カフェの雰囲気が良い。とてもオープンで入りやすい。
- まちづくりがいつまでもボランティアではダメ。商いをテーマにつながる場は貴重。



話し合いの内容



テーマ	内容
1 京都の情報サイトを充実させたい！	京都の情報サイト「KYOSTYLE」を約10年前に立ち上げたものの手つかずで悩んでいる高橋さん。京都と一緒に盛り上げるためにサイトをより良くしていくアイデアを募集。「ターゲットを絞る。」「地元の人が利用できるサイトにする。」「留学生の意見を取り入れる。」など、様々な意見が飛び交いました。
2 フードロスを中心にファーマーズマーケット	「フードロスをなくしたい。」そんな想いで活動されている鈴木さん。世にはびこるフードロス問題を楽しく解決できるようなイベントを企画中。問題意識はみんな持っているのだからと改めて実感したと語りました。ワークショップの中では「軽トラで余った野菜を集めて回る」など、面白いアイデアも飛び出しました。
3 喋れたら得するやん！	新京極でお土産物を販売されている藤本さんは「外国からの観光客が増えているのに、まだまだ外国人にとっては不便なところがある。」と考え、おもてなし向上を目指し、外国人観光客と会話するための英会話教室を作るため活動中。「会話は難しくても英語のメニュー表記を作ってはどうか」などの意見も出ました。
4 学区カルタをつくらう！	群馬県出身の杉林さんは、地元の「上毛かるた」をヒントに、京都の「学区カルタ」を提案しました。地元の人に元学区のことを知ってもらいたい、という想いで活動されています。どういうジャンルにするのか、どこの学区にするのかなどを話し合い、様々な意見が出されました。「いずれは年に1回、地元の方と集まってカルタをしたい。」と語りました。
5 お米と塩から考える食の暮らし	「食事」についておろそかになっている現代。もっと食事を大事にしてほしいという想いから様々な活動をされている安田さん。今は日本人の食の基本である「米と塩」について、じっくり考えられるようなワークショップを企画しています。次回12月に開催のおにぎりを作って食べるワークショップに向けて、多くの方に趣旨を理解してもらいたい、協力者の増加を目標にしています。
6 若者×高齢者のつながりを各地で	若者と高齢者のつながりを作る活動されている谷川さん。今回は、「若者と高齢者のつながりの場を出張形式で行いたい」という想いで提案しました。様々な意見が出た中で、「必ずしもつながることに積極的な人ばかりではない。相互にメリットが感じられるような場を企画したい。」と語りました
7 店舗を持たない起業家(作家)をサポートしたい！	「店舗がなくて活動している方々に場所を提案できないか。空き家や既存の店舗を活用できないか。」そんな想いで、アイデアを求めて参加された鈴木さん。場所、環境、人をつなぐためには、情熱だけではなく、金銭面のサポートも必要であることから、金銭面でのサポートや企業の巻き込み方について今後考えを深めていきたいと意気込みを語りました。

テーマ	内容
8 京都のよいイメージの確立の為のハード面について	たまたま新風館を通行し興味を抱いて飛び込み参加された大阪府在住の森島さん。京都のまちなかを歩いていて、ベンチが少ない、ゴミが落ちている、駅に時計が少ない、などイメージが低下する光景に衝撃を受けました。色々な方の意見を聞いて、京都という土地柄の特徴や、現在行われている取組を学びました。今回参加した経験を活かして、「まずは自分の住んでいる地域から、まちの良さを発信していきたい。」と語ります。
9 京まちなかの横断的なエリアマネージメントをするNPOの設立！	「京まちなかに横断的なエリアマネージャーが必要。」とおっしゃる鈴木さん。行政からも市民からも必要とされるNPO法人の設立を目指して活動中。ワークショップを通して、行政の取組の受け皿だけではなく、市民の取組をサポートする事業も必要だということを実感しました。今後は更に人材やスポンサーを集めることを決意されました。
10 まちなかの全ての人に情報を浸透させるためには？	「会社の新事業として、一般投稿からなるニュースメディアを立ち上げる。」と考える中村さん。多くのサイトが消えていく中で、どのように人々に浸透させていくか、アイデアを募集されました。「ユーザーが体験できるモノ作りでロコミを増やす」「今ある財産、人材を有効活用する」「人とのコミュニケーションを増やし、ターゲットごとに媒体を変える」など、具体的な案が飛び交いました。
11 若い世代が学び次世代へつなぐ『京育』講座＆『リトル KYOTO』の開催	子どもたちを中心に考えるまちづくりが必要と考える中村さん。子どもたちが、京都の文化、商い、お行儀、まちのつくりを1日で体験できる学びの場「小さな京都」を企画中。「三世代の接点を作ってはどうか」「子どもだけでなく、外から来た人や大人が学ぶ場も必要」など様々なアイデアが出されました。実現に向けて、京都の良さを伝える「かっこいい大人」を集め、海外を含め、他の地域に向けて京都を発信していく予定です。
12 みつばちから商い道は？ブランド化・環境？	区役所の屋上で養蜂を行い、区内に広める活動をされている西村さん。みつばちを商いにつなげていく可能性について、色々な立場からの意見を募集しました。商業化、ブランド化、環境の取り組みなど、様々な視点で意見が集まったようです。「みつばちの巣箱を市内に1000箱！設置したい」と目標を語りました。
13 若手のつくり手支援	ものづくりの支援をされている商業振興課の梁川さんは、「京都でものづくりをしている人をどのように支援し、京都ブランドを発信していくか。」について、アイデアを募集されました。ワークショップを通して「作り手が地域とのつながりを持つように支援すること」「今後は行政の持ち味を出し、継続性のある事業をしていくこと」が求められていると実感しました。

